

# 令和5年度 社会福祉法人淳邦会 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

ケアハウス オパール

デイサービスセンター オパール

オパール居宅介護支援事業所

福田高齢者支援サブセンター

グループホーム ひなぎく

育成推進室



## 令和5年度 事業報告

特別養護老人ホーム のぞみ荘  
(ショートステイを含む)

### ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや事故予防、感染予防、健康観察に重点をおいて安全で安定した生活が送れるよう支援を行った。

4月より制限はあったが対面での面会を再開し、家族との連携の強化を図り、入所者が生き生きとした生活が送れるよう取り組んだ。

事故においてはリスク委員会を中心にした情報共有と研修開催で予防に努めた。

感染対策においては7月から9月にかけて10名程度の新型コロナウイルス罹患者を発症したが、医療・看護・介護が連携し、早期に終息させることができた。今後も対策の徹底（マスク着用や手指消毒、定期的な換気、消毒など）により職員全体で取り組んでいきたい。

最適なサービスの提供においては、人員不足の中多職種で協力しケアプランを継続的に見直し実施につなげた。

看取り介護においては看取り介護加算取得に向け研修を実施し、入所者や家族の意向に沿って看取り介護加算を4事例取得することができた。

### ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染対策を実施した中で実習生の受入れを行った。

地域の関係機関と連携し緊急の対応も柔軟に行った。

### ・優秀な福祉人材を育成する

研修については、外部の研修に参加する機会がなかったが、外部から講師を招き施設内での研修や委員会主導の研修を計画的に実施した。

### ・人が活きる職場環境を整備する

5年度においても職場環境の改善策として電動ベッドを増加導入し、労働環境の改善を図った。

### ・安定した経営を継続する

平均稼働率は92.6%（目標95%、令和4年度実績94.8%）と目標には届かなかった。

ショートステイは44.5%（目標50%、令和4年度実績47.5%）と目標には届かなかった。

武田病院と合同で毎週開催する効率化推進会議において空床管理をすすめ、昨年度に比べ空床数を124日減少することができ、今後もスムーズな入所が出来るように次

候補の確保に努めたい。

・ **業務管理体制（法令等遵守）を徹底する**

尊厳の視点に立って、虐待防止においては研修の実施、身体拘束はゼロ、不適切ケアにおいても研修等で振返りを行なうことで権利擁護に努めた。

安全対策においては消防避難訓練を実施、福祉避難所においては台風時期に速やかに受入数を報告するなど柔軟に対応した。

# 令和5年度 事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム のぞみ荘

## ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々のコミュニケーションや事故予防、感染予防、健康観察に重点をおいて安全で安定した生活が入居者のペースで送れるよう支援を行った。

4月より制限はあったが対面での面会を再開し、家族との連携の強化を図り入居者が生き生きとした生活が送れるよう取り組んだ。また、居室の整備に努め心地いい環境づくりを継続するとともに定期的なミーティングで対応をこまめに検討し入居者の生活のペースを重視した支援を行った。

事故においてはリスク委員会を中心にした情報共有と研修開催で予防に努めた。

感染対策においては、職員が数名コロナ罹患したが、対策の徹底（マスク着用や手指消毒、定期的な換気、消毒など）により利用者への感染を防ぐことができた。今後も職員全体で取り組んでいきたい。

最適なサービスの提供においては、人員不足の中多職種で協力しケアプランを継続的に見直し実施につなげた。

看取り介護においては5年度は対象事例がなかった。

## ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染対策を実施した中で実習生の受入れを行った。

従来型特養と一体的に取り組み、地域の関係機関と連携し緊急の対応も柔軟に行った。

## ・優秀な福祉人材を育成する

研修については、外部の研修に参加する機会がなかったが、外部から講師を招き施設内での研修や委員会主導の研修を計画的に実施した

## ・人が活きる職場環境を整備する

5年度においても職場環境の改善策として電動ベッドを増加導入し、労働環境の改善を図った。

## ・安定した経営を継続する

今年度の平均稼働率は96.6%（目標95%、令和4年度実績94.6%）目標を達成することができ、昨年度に比べても2%の微増となった。毎週開催する効率化推進会議で空床管理をすすめ、昨年度に比べ空床数を69日減少することができ、今後もスムーズな入所が出来るように次候補の確保に努めたい。

- ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

尊厳の視点に立って、虐待防止においては研修の実施、身体拘束はゼロ、不適切ケアにおいても研修等で振返りを行なうことで権利擁護に努めた。

安全対策においては消防避難訓練及び地震対応訓練を定期的実施した。

## I 入所者の状況

### 【入退所状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者	4	1	3	0	2	3	1	3	2	1	2	3	25
退所者	2	3	0	2	2	3	0	5	0	1	4	4	26

### 【介護度別入所者延べ人数】

従来型(50)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
要介護2	20	21	38	31	31	9	62	90	93	93	87	93	668
要介護3	412	376	396	399	369	377	335	303	400	403	353	293	4,416
要介護4	533	643	647	643	675	647	643	600	633	631	614	727	7,636
要介護5	406	299	312	362	334	356	372	319	310	298	292	130	3,790
稼働率	90.1	90.4	94.3	94.6	92.9	94.3	93.1	89.5	94.6	93.9	94.8	88.6	92.6

地域密着型(20)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2	30	30	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	365
要介護3	256	258	271	309	320	330	372	343	333	341	298	303	3,734
要介護4	120	120	120	124	93	90	93	84	83	124	116	124	1,291
要介護5	170	170	150	159	155	150	124	120	124	124	116	124	1,686
稼働率	96.0	93.7	95.2	95.5	96.6	100.0	100.0	96.2	92.1	100.0	96.4	97.1	96.6

注) 入所者数は、医療機関への入院者は除く

### 【要介護度】

令和6年3月31日 現在

	1	2	3	4	5	平均要介護度
従来型	1	3	10	24	8	3.76
ユニット型	0	1	10	4	5	3.65
合計	1	4	20	28	13	3.73

## II 短期入所(ショートステイ)の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
利用人数	15	17	15	17	22	18	17	19	16	15	12	14	16.4
利用延べ日数	289	287	262	301	349	257	287	287	237	241	211	248	271.3
人数/1日	9.63	9.26	8.73	9.71	11.26	8.57	9.26	9.57	7.65	7.77	7.28	8	8.9
平均介護度	3.07	3.35	3.27	3.41	2.95	3.06	3.12	3.11	3.69	3.73	3.00	3.21	3.25
稼働率	48.2	46.3	43.7	48.6	56.3	42.9	46.3	47.9	38.3	38.9	36.4	40.0	44.5





## 令和5年度 事業報告

在宅支援部  
ケアハウス オパール

### ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

コロナの発生で、5月に1名、7月に1名、9月に1名と感染者が出たが、早期に対応することで感染の拡大を防ぐことが出来た。

家族が自由に面会が出来ない状況が続いていたので、状態が不安定な方、連絡が密に取れない家族に、毎月状況を報告する手紙を出し、安心した入居を継続いただける様に努めた。

日頃から出来る限り感染対策を行い、コロナ感染者が出る度に困った事、反省点を考え次に生かした。

身体面・認知面で気になる事があれば、その都度対応を考えたり、ケアマネ・家族に報告し、ケアハウスでの生活に困らない様、必要なサービスに繋がられる様に心掛けた。

毎月のお茶会は、季節に合わせた内容を検討し、年間の行事会は感染対策の許す範囲で行い、少しでも入居者に季節感を感じてもらえるように努めた。

### ・人が活きる職場環境を整備する

コロナの対応で一度だけ施設内研修に参加出来なかったが、他は全て出席し、参加出来なかった職員は、後日資料にて自己学習を行うことができた。

施設外の研修については、休日を利用し、参加して自己研鑽に努めている。

### ・安定した経営を継続する

本年度は空床日数が前年に比べて少なかった。稼働率は本年度 98.2%となり、年間入居日数は前年度が 5,110 日であったのに対し、本年度は 5,395 日、空床日数は 95 日であった。最大入居延べ人数も、前年度 168 名のところ、本年度 177 名と空きが少ない状況で年度末を迎えた。

入院の多かった入居者が退去したこともあるが、入院日数も前年より少なく、前年度 160 日であったのに対し、本年度は 128 日。他の入居者の ADL の低下も比較的緩やかであった。

問い合わせ件数、前年度 65 件に対し本年度 45 件、見学件数は前年 17 件、本年度 8 件と減少しているが、本年度の見学者の中には、オパールの空床のみをお待ちくださる方が数件あり、前年度より新入居者獲得がスムーズであった。

## I 入居者の状況

### 【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	197	186	180	186	184	150	155	150	155	155	145	155	1,998
女性	246	279	270	279	279	270	300	300	310	310	266	288	3,397
合計	443	465	450	465	463	420	455	450	465	465	411	443	5,395
稼働率	98.4	100.0	100.0	100.0	99.6	93.3	97.8	100.0	100.0	100.0	94.5	95.3	98.2

### 【退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3

### 【年齢構成】 令和6年3月31日 現在

年齢	60～70歳	71歳～80歳	81歳～90歳	91歳以上	合計
人数	0	5	7	3	15

## II 介護状況

### 【要介護度】 令和6年3月31日 現在

介護度	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	2	1	3	7	1	1	0	0	15

### 【介護サービス利用状況】 令和6年3月31日 現在

介護サービス	ホームヘルプサービス			デイサービス	デイケア	福祉用具 レンタル	訪問看護
	生活援助	身体介護	介護タクシー				
利用人数	10	3	5	5	6	12	7

# 令和5年度 事業報告

在宅支援部  
デイサービスセンター オパール

## ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

日々の業務の振り返り、業務改善提案を週1回、全員参加の短時間のミーティングにより継続している。質の向上への取り組みの検討➡実施➡検証のサイクルを回転させることにより、職員の主体性向上にもつながっている。職員と利用者との日々のコミュニケーションの中からニーズを聞き取り、介護計画書に位置付けられた支援を展開すると共に、コロナ渦では制限されていた外出支援や地域交流を再開し始めている。

## ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

実習生はもとより、福祉職場インターシップ事業、夏のボランティア体験事業、また、教育職員免許法に基づく「介護等体験」の受け入れなどを通し地域福祉の拠点となる活動を継続している。未だ実現には至っていないが、地域交流につながる活動プログラムを継続的に検討していく。

## ・優秀な福祉人材を育成する

デイサービス職員の研修計画に基づき積極的に外部研修を受講している。認知症実践者研修など受講が加算につながる研修を注視し、利用者にとっても、安定経営にとっても利点のある様々な研修機会を通し、優秀な福祉人材を育成していく。

## ・安定した経営を継続する

令和5年度の目標である60%以上は達成した。今後は法人全体のデイサービスの役割を認識し、地域のケアマネジャーや関連事業所への訪問を中心に、効果的な営業を検討する。平均稼働率70%以上を目指すとともに、質の向上への具体的な取り組みを継続する。

## ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

各種委員会活動や身体拘束、虐待研修など社内研修を通して、日常業務の判断基準の依拠となる知識を習得する。現場では利用者の安心、安全を最優先に職員がお互いに声を掛け合いながら、「事故0」を継続する。

## I 利用者の状況

### 【利用状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	0	0	0	0	0	0	2	5	4	4	4	3	22
要支援2	20	23	22	20	28	26	26	31	30	26	33	29	314
要介護1	183	201	232	203	225	204	210	216	202	202	211	226	2,515
要介護2	68	72	64	66	76	79	104	123	106	85	97	90	1,030
要介護3	39	46	44	42	33	31	41	38	33	32	22	20	421
要介護4	0	9	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	27
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	310	351	371	340	362	340	383	413	375	349	367	368	4,329
営業日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21	20	21	21	257
稼働率	62.4	61.2	67.6	64.8	62.8	64.8	69.6	75.2	71.6	70	70	70	67.5

### 【年齢構成】 令和6年3月31日 現在

年齢	40～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人数	0	1	3	19	15	38

### 【要介護度】 令和6年3月31日 現在

介護度	要支援1	要支援2				
人数	1	4				
介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	21	9	3	0	0	33

## 令和5年度 事業報告

在宅支援部  
オパール居宅介護支援事業所

- ・ **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

月1回、複数の視点でケアプランチェックをおこなうことにより、介護保険サービスだけに偏らず本人のできる事を引き出せないかを検討することができた。

- ・ **地域福祉の拠点となる活動を実施する**

地域へ出る活動は要請がなくおこなうことができなかったが、地元の保育園児との交流会を実施することはできた。

- ・ **人が活きる職場環境を整備する**

令和6年4月の法改正に備えてWeb研修だけでなく現地参加型の研修にも参加し、改正内容に対応することができた。

- ・ **安定した経営を継続する**

定期的に高齢者支援センターや医療機関の退院支援担当者への営業をおこない、請求件数は50件から57件に増加した。

## I 利用者の状況

【年齢構成】 令和6年3月31日 現在

年 齢	～64歳	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	合 計
人 数	0	2	10	34	12	58

【要介護度】 令和6年3月31日 現在

介護度	介護予防	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人 数	21	20	11	4	0	1	57

【月別利用者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護給付	19	20	19	19	20	20	20	19	19	17	19	21	232
介護予防	31	32	33	34	33	31	32	33	33	36	36	36	400
総合事業	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5	58
計	55	57	57	58	58	56	57	57	57	57	59	62	690

## II サービス利用状況

令和6年3月31日 現在

種 類	訪問介護	通所介護	短期入所	福祉用具貸与	その他	合 計
人 数	19	18	3	23	28	91
うち淳邦会利用		9	1			10

## 令和5年度 事業報告

在宅支援部  
福田高齢者支援サブセンター

### ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

水島地区の高齢者支援センター合同で雛巡りの期間に移動相談会と作品展を4年ぶりに開催することができ、多くの地域の方や高齢者に参加していただくことができた。地域の方の行っているサロンや通いの場にも今後参加していきたいと思っている。また、実態把握調査時にはフレイル予防のチラシやその時期に合わせた情報発信ができるチラシを持って訪問することができた。今後も困りごとだけではなく地域での楽しみの場を紹介できるよう情報を収集し発信したいと考えている。

### ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

ケアマネ交流会に参加することで地域のケアマネや医療関係者と顔を合わせて一つのテーマに合わせて意見交換する場を持つことができた。地域の自分から声をあげられない人の早期発見・対応という目標は支援センターの職員だけでは踏み込めない多問題を持つケースもあり、今後も様々な専門職や地域の方との連携が求められると考えている。

## I 総合相談事業等実績報告

		電話	来所	訪問	その他	合計
介護予防事業		0	0	0	0	0
総合事業		2	0	0	0	2
予防給付		0	0	0	0	0
権利擁護		0	0	0	0	0
高齢者虐待	身体的	0	0	0	0	0
	経済的	0	0	0	0	0
	精神的	0	0	0	0	0
	性的	0	0	0	0	0
	介護放棄	0	0	0	0	0
福祉相談・手続代行		23	11	39	0	73
介護保険・手続き代行		15	1	4	0	20
健康・医療		18	3	37	0	58
高齢者以外を対象		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
合 計		58	15	80	0	153



# 令和5年度 事業報告

在宅支援部  
グループホーム ひなぎく

## ・利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する

コロナ感染をしっかりと意識しながら、施設内での可能な関わり方を模索した。日々の生活がリハビリとなるレクリエーションや家事作業の手伝い、楽しみのひとつとなる食事会や記念行事では、いつもと違う表情が見られた。中断していたご家族との面会も再開され、薄くなっていた関係が徐々に戻ってきたように思われる。

## ・地域福祉の拠点となる活動を実施する

感染症の影響により、定期的に行っていた運営推進会議が中止となってしまった。こちらからの情報発信のみとなってはいたが、新たな施設との交流を結べたことで違ったやり取りが行えたと思う。感染症対策を取りながら、実習生の受け入れは変わりなく継続することができた。

## ・優秀な福祉人材を育成する

施設内研修には可能な限り、進んで参加している。研修で得た情報はひなぎくへ持ち帰り、不参加者は後日、確認している。2か月に1度の「身体拘束・虐待防止」の勉強会を繰り返し行うことで、介護や接遇に対して意識を高めることができたと思う。今後は、利用者の高齢化が進むにつれて高まるリスクについての学習も強めていきたい。また、今年度より受け入れる外国人職員が、スムーズに業務をこなせるよう援助していきたい。

## ・安定した経営を継続する

空室状況を考えながら入所相談に適切な対応を行い、申し込みにつなげた。年度後半にはケガによる入院が重なった為、利用実績が低下してしまい稼働率は90.3%と目標に達することはできなかった。今後は申込者に継続的に連絡を行うことで入所希望を継続してもらい、退去後の空室期間を短縮するよう努めたい。

## ・業務管理体制（法令等遵守）を徹底する

被災時の対応や業務の流れ、手順マニュアルをそれぞれ見直したり新たに作成したりして、職員同士の動きを共有できるようになった。度重なる事故に対しては原因究明や改善策の検討を重点的におこない、事故減少に取り組む。

## I 入居者の状況

### 【入居状況】 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1	90	102	103	124	152	158	186	150	155	155	145	124	1,644
要介護2	145	124	120	124	98	90	116	101	129	155	145	139	1,486
要介護3	157	186	156	155	155	150	155	180	186	186	174	217	2,057
要介護4	0	31	30	31	8	0	0	0	0	0	29	31	160
要介護5	60	62	60	62	62	60	67	38	49	31	22	12	585
合計	452	505	469	496	475	458	524	469	519	527	515	523	5,932
人数/日	15.1	16.3	15.6	16.0	15.3	15.3	16.9	15.6	16.7	17.0	18.4	16.9	16.3
稼働率	83.7%	90.5%	86.9%	88.9%	85.1%	84.8%	93.9%	86.9%	93.0%	94.4%	102.2%	93.7%	90.3%

注)入院者は除く

### 【要介護度】 令和6年3月31日 現在

介護度	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
人数	0	4	5	7	1	1	2.33

### 【年齢構成】 令和6年3月31日 現在

年齢	～64歳	65～79歳	80～89歳	90歳以上	合計
人数	1	1	12	3	17

## 令和5年度 事業報告

育成推進室

- ・ **利用者の意思を尊重した質の高いサービスを提供する**

未経験の職員や外国人職員がより早く業務を把握できるためのチェックリスト作成を目指したが完成には至らなかった。今後、未経験者や外国人職員の受け入れは続くと予想されるため早急に完成を目指すか代替案を考えることで習熟スピードの加速を目指す。

- ・ **地域福祉の拠点となる活動を実施する**

実際に「現地で会う交流」はできなかったがインターネットサービスを活用して遠隔地の家族や関係者、幅広い層へのアプローチができた。

- ・ **優秀な福祉人材を育成する**

コロナ感染症による制限も減少し、外部講師による施設内研修への参加者数は令和4年度よりも増加している。

- ・ **人が活きる職場環境を整備する**

入職後、3年未満で退職する職員がほぼ半数を占めていた。入職後の部署内での役割や将来像の提示が不十分であった可能性があり、今後の課題と思われる。

- ・ **安定した経営を継続する**

実習の受け入れや就職フェアなどへの参加を通じて新卒職員や中途職員の採用に勤めた結果、退職した職員数とほぼ同数の職員を採用することができた。

- ・ **業務管理体制（法令等遵守）を徹底する**

介護保険法で実施が定められている「身体拘束の排除の為の取り組みに関する研修」や「感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修」等の研修を中心に計画、実施することができた